

令和7年7月
鳥栖市教育委員会
定例会議事録

鳥栖市教育委員会

鳥栖市教育委員会 議事要旨

1 会 議 名

教育委員会 7 月定例会

2 開 催 日 時

令和 7 年 7 月 9 日（水） 9 時 0 0 分開会 9 時 5 3 分閉会

3 開 催 場 所

鳥栖市役所 3 階第 3 委員会室

4 会 議 の 公 開

公開

5 出 席 委 員

佐々木教育長、古澤教育長職務代理者（委員）、戸田委員、森田委員、大石委員

6 出席事務局職員

西木教育総務課長、井手学校教育課長、岡本学校給食課長兼学校給食センター所長、
久家生涯学習課長兼図書館長、眞子教育総務課総務係長、

7 傍 聴

0 人

8 経 過 報 告

6 月定例会以降の経過報告

9 議 事 録 承 認

6 月定例会の議事録承認

【承認】

10 報 告 事 項

(1) 教育プランの進行管理について

11 議 案

議案第 15 号 学校施設に係る工事の計画について

12 今後の予定等

13 次回会議予定

教育委員会 8 月定例会 令和 7 年 8 月 2 0 日（水）9 時 0 0 分から

○佐々木教育長

ただいまから教育委員会 7 月の定例会を始めます。それでは事務局より経過報告をお願いします。

○西木教育総務課長

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

事務局から経過報告及び 6 月議会の概要についての説明が終わりましたが、御質問等ありますでしょうか。

○古澤委員

先ほど報告をいただいたとおり、6 月議会ではこれだけ多くの議員の方から教育関連の質問があっており、特に学童保育関係については、数多くの意見が出ております。ここには本会議の答弁を記載いただいておりますが、委員会では市の考えや今後の方針について、議員さんたちもより強く追及されるのかなと思っています。私たちもこの定例会に臨むに当たって、議員の方に負けないように一つ一つの項目について、真摯に取り組んでいかなければいけないと実感したところです。

○佐々木教育長

ありがとうございます。他に御質問等ありますでしょうか。無いようですので議事録承認に移ります。今回は 6 月の定例会の議事録を事前にお配りしております。内容の修正等ありますでしょうか。無いようでしたら、6 月の定例会の議事録について御承認頂くということによろしいでしょうか。

○各委員

異議なし。

○佐々木教育長

それでは次に、協議報告事項に入ります。令和 7 年度鳥栖市教育プラン進行管理について、事務局からの説明をお願いします。

○西木教育総務課長

(資料に基づき説明)

○井手学校教育課長

(資料に基づき説明)

○岡本学校給食課長兼学校給食センター所長

(資料に基づき説明)

○久家生涯学習課長兼図書館長

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

事務局からの説明が終わりましたが、御質問等ありますでしょうか。

○大石委員

2点ございまして、「学力の向上」の計画の中で、ICT利活用教育の推進として初任者研修にて実施予定ということですが、こちらに見学でも、オブザーバーという形でも良いのですが、参加することは可能かどうか検討していただけないか、というのが1点目です。2点目が、同じく「学力の向上」の中で、教科「日本語」のコーディネーター研修会の実施などをされているとのことですが、経過報告の6月市議会の一般質問の中で、教科「日本語」の廃止を求める教職員が31名いるということですが、この数字は増えているのか、あるいは横ばいなのかというところが気になって、教科「日本語」自体はすごく良い取組だと個人的にはすごく思っているのですが、この31名の思いに対して、しっかり説明ができていけるのかなということが気になったので、その辺りの現状を教えてください。

○古澤委員

関連で質問ですが、私も教科「日本語」の廃止を求める意見が31名の方から出ているということで、こういうネガティブな意見をお持ちの方がいらっしゃるということについて、他の市町から転入してきて、新たな教科を指導しなきゃいけないというプレッシャーからなのか、もしくは何年も鳥栖市で指導をされた中で、もう廃止して良いんじゃないかと思われたのか、その辺りの内訳というのは把握されてるのかなということが気になったので把握されていれば教えてください。

○井手学校教育課長

まず大石委員からの一つ目のご質問のICT利活用のプロジェクト会議への参加については、課内で検討させていただいてもよろしいでしょうか。前向きに検討させていただきます。次に二つ目の、教科「日本語」に関して、アンケートで31名の廃止を望む声があるということに対する御質問ですが、これは教職員組合のアンケートで出た意見になります。現在手元に資料を持ち合わせておりませんので、詳しくは後ほど説明をさせていただきたいと思いますが、現在市内には、県費教職員が小中学校合わせて500名程度おります。このアンケートは鳥栖三養基地区で、教職員組合が取ったアンケートでありまして、自分の中では組合員に偏ったアンケートではあるのかなと思ってます。その中で、鳥栖市は120名程度の職員が回答したと記憶しております。その中の31名が廃止を希望しているということで、このアンケートについて何歳くらいの職員が答えたのかとか、鳥栖市で勤務して何年目の職員が答えたとかの内訳については、公表されておられません。ただやはり31名からそういった声があるということを受止めて、我々がきちんと、教科「日本語」の意義について十分に説明をしてこなかったことについては我々の責任であると痛感しておりますので、小中一貫の研修会等の中で、その意義について今後も周知をしていきたいとは思っております。全体の声というのは、まだ分からない部分ではありますが、今後どこかで情報を集めていかなければいけないと思っていますところなんです。

○大石委員

先ほども言いましたが、教科「日本語」はすごく良い取組であるというのは、本当に感心していますし、ありがたいなとは思っております。しかし、この31名の方どういう思いで回答したかは分かりませんが、何かしら思うところがあって回答してるんだろうと想像します。だからといって先生方の負担だからあれもこれもやめるという発想が良いとは思ってなくて、現場の先生方も、市教委としても、負担感をできるだけ減らそうと取組をされているとは思いますが、佐賀県全体で見ると、鳥栖市は教科が一つ多いというのは間違いないことで、そう考えると何でも削っていくわけじゃないですけど、これだけ欠員が多い中でそれを負担に思われていることは、今後良い方向に行かないのかなと思います。学校訪問で見えても、本当に先生方いつも頑張ってもらってるし、子供たちに向き合ってもらってるんですけど、教職員個人や学校単位での対応では難しいのかなと思いますので、鳥栖市でせつかく勤めてくださっている先生方のためにも、せつかく良い取組をするのであれば、今後さらに良い方向に舵切りするために、一旦止めることも含めて、思い切った対策を前向きに検討していただきたいなと思っています。

○井手学校教育課長

教科「日本語」につきましては、教科書が使用からもう10年を超えましたので、教科書の改訂を現在行っているところでして、紙ではなくデジタル教科書の方向で進めているところです。今後更に、教科「日本語」のブラッシュアップを進めていきたいというのが学校教育課としての考えですので、確かに教員不足などの問題もあるのですが、教科「日本語」を一旦止めてしまうと再度始めるためには、かなり厳しいハードルがあると思います。ただ大石委員もおっしゃるように、鳥栖市は1教科多いってところがございしますので、鳥栖市で勤務したらどこか時間的にゆとりが持てるとか、余裕が持てるような業務負担を削減していくことについては検討をしたいきたいと思います。

○古澤委員

同じく教科「日本語」について質問ですが、教える先生方の気持ちも大事なんですけど、もう10年経過しているということで、授業を受ける側の子どもたちの声も集まってきているのではないかと思います。保護者の方も、私が日本語の授業を見に行った時には皆さん感動されていた記憶があって、その辺り声も含めて今後の方向性を考える必要があるかなと思います。また県の教育委員会としても鳥栖市の教科「日本語」について疑問がある場合には何かしらリアクションがあると思いますので、県の反応として否定されているわけではないということですよね。

○井手課長

子どもたち、教員、保護者の反応については、アンケート調査をするなどして、把握をしていかなければいけないという話は教育長と以前から話をしていたところでありますので検討させていただきます。また県の教育委員会から、教科「日本語」について、良いですよとか悪いですよという声は、私が事務局に来て5年になりますが、聞いたことはありません。

せんし否定もされていません。

○佐々木教育長

井手課長の説明に補足をさせていただきます。アンケートについては、先ほど古澤委員も言われましたように、子ども、保護者、教職員から取るなどして、本来きちんと3年ごとに評価をしていかなければならないものと思ってます。というのは、御質問の県の教育委員会の話と重なるところではありますが、この事業そのものが、国の教育課程特例校制度の指定を受けて実施しているものです。ですので、教科「日本語」というのをきちんと位置づけて教育課程の特例として、その他の時間を省いて教科として行うことの国の許可を頂いています。そういう意味で県からの御指導、御指示ということ以上に、国の許可を得ている事業として捉えています。そういったことから、評価をきちんとして、国へ報告をしなければならないという流れではあります。先ほど井手課長も言ったように、そういう意味でアンケートを今後行って、きちんと国への報告、それから市民の方への報告をしていかなければいけないものと思っています。国のほうの当時の学習指導要領の編成に関わられた方の著書の中にも、鳥栖市の教科「日本語」について、「このように柔軟な教育課程を積極的に取り組んでほしい」ということも書いていただいておりますし、国のほうも全国的に、教育課程をもっと柔軟に横断的な教科をやっていくということを積極的に進めておりますので、そういった意味からも、教科「日本語」をブラッシュアップしながら進めていかなければならないというふうに思っています。他に御質問等ありますでしょうか。貴重な意見をありがとうございます。それでは私の方から先ほど報告を受けた中で、少しだけ補足報告をさせていただきたいと思います。「健やかな体」の施策の中で、食育推進の取組に関わる場所ですが、先日市長に給食センターの給食の試食に来ていただきました。給食を作るところから、配送し子供たちの給食に至るまでの流れを岡本課長や栄養教諭から説明いただいて、どういった課題があるのかということを経営に共有させていただきました。市長も子供たちの残食が気になるということで、教育プランにも学校給食の残食率という活動指標があり、学校給食課でも課題として取り組んでいるところですが、なかなか残食率が下がっていかないということです。まずはおいしい給食を作るというのが、1番ではないかなというふうに思うのですが、残食率が多く、子供の給食を食べる量が少ないという状況です。その辺りで岡本課長のほうから何か説明ありますか。

○岡本学校給食課長兼学校給食センター所長

残食率については、年々増えている状況にあります。残食を減らす取組として子供たちが食べやすい献立を作成すること、例えば今のように暑い時期でも食べやすいものを取り入れたり、行事食を取り入れたりするなどの取組をしています。しかし、先ほど教育長もお話しされましたが、食べる量が少なくなってきたりとか、家庭で食べるものが偏っている影響なのか、根菜類などの歯ごたえがあるものが食べられないとか、私たちが子どもの頃にはフルーツが給食に出ると喜ぶ子どもが多かったと思うのですが、今は家庭でフルー

ツを食べ慣れていないために、フルーツを食べられない子どもが増えてきているなど、昔とは違ってきています。また、だれか給食を戻す子がいれば、それに合わせて周りの子どもも戻す状況もあります。献立については栄養教諭がカロリー計算、栄養価を考えて作成をしていて、残食を減らす努力を重ねているのですが、なかなか努力が追いついていない状況です。家庭での食生活の状況も含めて、影響していることが多いかと思いますので、学校や子供たちの声も聞きながら、取組を進めていきたいと考えているところです。

○古澤委員

担当課がしっかりと気を配ってもらっているのはよく分かりましたし、残食率も大事ですけど、まずは子ども達がおいしい給食を安全に食べられるように提供するのが1番だろうと思うんですね。少し前に福岡市のほうでは、変わったメニューで取上げられてしまいましたけれども、鳥栖市の給食はそういったことはあってないですし、まずは安全に給食を提供する。その上で残食率を減らす取組だろうと思いますので、大変だと思いますけど頑張ってください。

○戸田委員

先ほどの御説明の中で食べられないものが多い子が増えてるとか、偏食の子どもが増えてるのは、家庭の事情に加えて、昔であれば、少し強く食べなさいと言っていたのが、今はなかなか言えなくなってしまうという事情があるということはよく理解しています。その上で気になったことが、食べる量が減っているという話がありましたが、ただ単に食べれないものが多いから食べる量が減ってるのか、全国的に子供たちの食べる量が減っていつている傾向があるのか、食べる量が減っているというのがどういうことなのか教えてください。

○岡本学校給食課長兼学校給食センター所長

食べられないものが増えてるということと、子ども達の食べる量が減っているということ両方あると思います。全国的な状況というのは、きちんと調べたことはないのですが、すぐにお答えできない状況です。

○戸田委員

残食率というのが何なのかということも関わってくると思って、これだけ食べてくださいね、と出していた量を分母にしている訳なので、クラスで提供される量というのも変わってくる可能性があるのかなと思ってのお尋ねでした。

○佐々木教育長

給食の摂取基準に則って栄養教諭がメニューを作って、量も考えているけれども、それと子供たちが実際に食べる量が離れていつているという現状があるかなと思います。ただ学校によってもしくは学級によっては完食しているっていう学級もあるということなので、食育の指導、給食指導の在り方も関わってくる部分ではあるかなと思います。

○井手学校教育課長

給食の残食率については、学校給食課の問題と、学校教育課、教育指導の問題も大きなウ

エイトを占めてると思っています。以前は、昼休みに入っても残さず食べさせる先生もいましたし、昼休みを使って食べてもいいよっていう指導もしていたのですが、今は昼休みになると給食が残っていても片づけさせていて理由としては、決められた時間までに食器を全部持っていけないパントリーの方が困るから。それから、子供たちに昼休みをきちんと確保しましょうということ。その背景にはやはり、無理やり食べさせることで子どもが先生のことを嫌がっています、といった厳しい指導に対しての保護者からの声もあります。準備を含めて45分の給食指導の中で、食べる時間としては正味20分から25分ぐらいの時間で食べ終わることができない時には、もうここで終わりですよ時間を切ってしまうことがあります、そこも大きな影響を与えていて、今後もそこが懸念されるのかなと思っています。

○佐々木教育長

子どもたちの体をつくるものですから、いろんな角度から取り組んでいって、子供たちに安心安全な給食、それからおいしい給食を届けるために進めていければと思います。ちなみに先日市長と試食をしたときは春巻きで、他にもちゃんと副菜があって、春巻きだけではありませんでした。またそのときに栄養教諭が言っていたのが、春巻きを初めて食べたという子供も中にはいたという話でした。そういう状況で家庭での食事の偏りっていうのも一つの要因としてあるのかなということは感じた次第です。もう一点私のほうから補足をさせていただきますが、プールの民間委託についてですが、現在市長が各施設を全部回られていて、他の行事もありお忙しい中でも、積極的にきちんと優先して実態を把握したいということで、視察に行かれています。以上、私のほうから、ここで報告をしておきます。他に御質問等ないでしょうか。それでは、令和7年度鳥栖市教育プラン進行管理について第1四半期の事業の取組状況の報告について、御了承をお願いいたします。次に議案に入ります議案第15号学校施設に係る工事の計画について議題といたします。事務局の説明をお願いします。

○西木教育総務課長

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

事務局からの説明が終わりましたが御質問ありますでしょうか。

○大石委員

御説明ありがとうございました。外壁改修工事については3校だけの実施でしょうか他の学校については今後検討するということでしょうか。

○西木教育総務課長

外壁改修工事につきましては、昨年度鳥栖小学校で外壁が剥落した関係上、建築または大規模改造工事から同様に経過をしている学校につきましては、外壁の調査を行いました。その結果、この3校について、改修工事を早めに行った方が良いという調査結果が出ました

ので、改修工事を今年度計画していくということになっております。

○佐々木教育長

他に御質問等ありますでしょうか。それでは、議案第 15 号学校施設に係る工事計画について、原案のとおり、工事計画を承認頂けますでしょうか。

○各委員

異議なし。

○佐々木教育長

原案のとおり承認されました。事務局は計画に沿って学校施設の工事を進めてください。それでは次に今後の予定に入ります。事務局の御説明をお願いします。

○西木教育総務課長

(資料に基づき説明)

○佐々木教育長

事務局からの説明終わりましたが、御質問等ありますでしょうか。無いようですので、本日の議題につきましては全て終了いたしました。これをもちまして、鳥栖市教育委員会 7 月定例会を終了いたします。